

現状

高知県立高知江の口養護学校（昭和 48 年開校）

- 障害種：病弱・身体虚弱（建物敷地：4,364 m²）
- 設置学部：小学部・中学部・高等部
- 主な対象：従来は、高知赤十字病院の医師を主治医とし、入院通院を要するネフローゼ、心臓疾患、白血病など長期療養の慢性疾患の児童生徒が対象であったが、近年、心身症やうつ病、適応障害等の精神疾患の児童生徒が中高等で増加している。

児童生徒の状況

OH12.5.1（小学部：8名 中学部：3名 高等部：13名 計 24名）

	小	中	高	計
心身症等	0	0	0	0(0%)
慢性疾患	8	3	13	24(100%)

OH27.5.1（小学部：3名 中学部：13名 高等部：12名 計 28名）

	小	中	高	計
心身症等	2	11	9	22(78.6%)
慢性疾患	1	2	3	6(21.4%)

近年児童生徒の障害(病状)の実態が大きく変化してきた

- ・慢性疾患の減少（20～25%）
 - ※ 病弱教育を行う分校2校も同様の傾向
- ・心身症等が中高等で増加（75～80%）
 - ※ 今後さらに増加が見込まれる。
- ・心身症等の児童生徒のほとんどが発達障害を併せ有する
- ・不登校経験による学習の遅れがある児童生徒が増加
- ・不登校の状態が改善されないケースが生じている
- ・コミュニケーションや対人関係に不安を抱える児童生徒が増加
- ・運動規制のない児童生徒が増加
- ・高等部卒業後の進路として就労のニーズが増加

検討

高知県における特別支援学校の再編振興について—病弱特別支援学校—
（意見のまとめ H27.11.13）【概要】

- 教育内容について
 - ・社会性を涵養する教育内容の充実
 - ・柔軟な教育課程の編成と職業教育の充実(高等部)
 - ・ICT機器の積極的な活用
- 専門性について
 - ・感染症予防を含め慢性疾患の専門性の維持向上
 - ・心身症等(発達障害)の見立てと指導支援の充実
 - ・不登校への組織的な対応力の向上
- 施設設備について
 - ・運動を保障するグラウンド、体育館、プール等の整備
 - ・心の安定のためグループ室、カウンセリング室等の整備
 - ・キャリア教育充実のため職業実習室の整備
 - ・グループホーム的な機能を有する寄宿舎の整備
- 関係機関との連携について
 - ・関係機関や外部専門家と連携した教育の充実
 - ・相談機関と連携した教育のつなぎの強化
 - ・学校間の連携や引継ぎを重視した教育の充実
- センター的機能について
 - ・小中学校等への相談支援機能を充実
 - ・通級による指導により専門的な指導を小中学校等に提供
- その他
 - ・新たな学校として校名の変更を検討
 - ・スクールバスの運行を検討

再編振興計画案(概要)

【新】病弱特別支援学校が目指す学校像

- 児童生徒の多様な教育的ニーズに応じた教育及び施設設備を備えた学校
- 多様な進路希望に対応できる教育課程と施設設備を備えた学校
- 医療等関係機関との連携を重視した専門性の高い学校
- 南海トラフ地震や医療的な緊急時に対応できる安全・安心な学校
- 小中学校や高等学校を支援するセンター的機能を備えた学校

<対応1> 多様な教育的ニーズに対応する教育内容と施設設備の整備

- 社会性を育成するため、ソーシャルスキルトレーニングを主とした自立活動を充実
- 運動規制がない児童生徒に運動面の学習を保障するため、体育館、運動場を整備
- 慢性疾患の児童生徒の病状の理解や感染症予防のため、セーフティルームを整備
- 心理的な安定の必要な児童生徒のため、グループ室、カウンセリング室を整備
- 学習意欲の向上や訪問教育の指導の充実のため、ICT環境を整備 ※分校を含む
- 共生社会を推進するため、副籍制度を導入した交流及び共同学習を推進 ※分校を含む
- 責任感や社会性を育むため、グループホーム的な機能を有する寄宿舎を整備
 - ※ 副籍制度：特別支援学校の児童生徒が小中学校等にも籍を置き、小中学校等で授業を受けることを可能にする制度
 - ※ グループホーム：地域社会の中で可能な限り家庭に近い環境のもと、少人数での共同生活を営む施設

<対応2> 高等部における柔軟な教育課程の編成とキャリア教育の充実

- 病状に応じた単位取得を可能にするため、単位制や通信による指導を導入
- 就労希望者の進路を保障するため、職業コースの設置と職業実習室を整備
- キャリア教育の充実のため、事業所見学やインターシップを導入

<対応3> 医療・福祉・労働等関係機関や専門家と連携した教育の充実

- 学校の健康安全体制の向上のため、児童生徒の実態に応じて看護師を配置
- 不登校の児童生徒に組織的に対応するため、SCやSSWとの連携を強化
- 自立活動の指導の充実のため、臨床心理士や作業療法士等との連携を強化
- 児童生徒へ円滑な教育的対応を行うため、相談機関との連携を強化 ※分校を含む
- 就労支援の充実のため、障害者職業センター、就職アドバイザーとの連携を強化



<対応4> 南海トラフ地震への対応や医療面の配慮等安全・安心な環境整備

- 南海トラフ地震から命を守るため、学校安全教育プログラムに沿った指導の徹底
- 津波浸水（2m未満）、長期浸水（約1箇月以上）に対応するため、適地への移転を検討
- 医療機関との連携を強化するため、新たな医療機関との連絡・協力体制を構築
- 学校の健康安全体制の向上のため、児童生徒の実態に応じて看護師を配置（再掲）
- 医療を常時必要とする児童生徒のため、国立高知病院分校に通学生を受け入れ

<対応5> センター的機能の充実

- 小中学校の特別支援学級(病弱、自閉・情緒)の指導の充実のため、相談支援機能を強化
- 小中学校等の特別な教育的ニーズのある児童生徒の指導・支援の充実のため、支援籍制度を導入した通級による指導を実施
 - ※ 支援籍制度：特別な教育的ニーズのある子どもが在籍する学校以外に籍を置き、必要な学習を受けることを可能にする制度

※ 高知江の口養護学校本校の移転整備について

<校舎等>	<候補地>	<寄宿舎>	<候補地>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 南海トラフ地震への対応 ○ 医療機関との連携 ○ 施設設備の充実 ○ 相談機関との連携 ○ 通学等の利便性 	<p>高知市大原町 (教育センター分館敷地)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 南海トラフ地震への対応 ○ 医療機関との緊密な連携 ○ 責任感や社会性の育成 ○ 共生社会の推進 	<p>高知市越前町 (自活訓練棟敷地)</p> 

課題

- 課題1 多様な教育的ニーズに教育内容や教育課程が十分対応できていない
- 課題2 適切な指導・支援を行うための教職員の専門性が十分担保されていない
- 課題3 児童生徒の実態の変化に施設設備が十分対応できていない
- 課題4 教育力の向上や進路保障の充実のための関係機関との連携が十分でない
- 課題5 心身症等に関するセンター的機能が十分発揮されていない

◆「再編振興計画案」の作成【1月】

2月議会説明

パブリックコメント(30日)

◆「再編振興計画」の策定